



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	27,878	0.4	926	93.8	939	95.6	590	85.5
2020年3月期第1四半期	27,763	△1.9	477	△60.7	480	△66.9	318	△71.0

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 814百万円 (424.1%) 2020年3月期第1四半期 155百万円 (△85.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	24.58	ー
2020年3月期第1四半期	13.25	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	73,552	48,190	65.5	2,005.90
2020年3月期	78,050	47,664	61.1	1,984.02

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 48,190百万円 2020年3月期 47,664百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	ー	11.00	ー	12.00	23.00
2021年3月期	ー				
2021年3月期 (予想)		11.50	ー	11.50	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	53,100	0.2	600	ー	500	ー	300	ー	12.49
通期	118,600	0.9	3,600	23.3	3,600	24.2	2,400	27.9	99.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	27,700,000株	2020年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	3,675,613株	2020年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	24,024,387株	2020年3月期1Q	24,024,387株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により世界的に経済活動が停滞した影響から、国内でも工業製品を中心に生産や輸出が急速に低下しました。また、外出、イベント等の自粛や緊急事態宣言の発出に伴い、消費マインドは盛り上がりを欠き、景気は減速傾向を強め、先行き不透明感が増す状況で推移しました。

菓子・飲料・食品業界は、在宅機会の増加から家庭内で保存できる一般食品の需要が一時的に増加したものの、感染拡大の収束が見通せない状況を受け、消費者の生活防衛意識が一段と高まり、個人消費は弱含みで推移しました。

このような状況下でありながらも、当社グループは一貫して食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、感染予防対策の徹底を図りながら、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、家庭内時間の増加や働き方改革、女性の活躍推進などによる社会の変化、健康志向の高まり等による消費者の購買行動の多様化など、日々変化する顧客ニーズへの対応として、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。加えて、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発に取り組むとともに、テレワーク等の推進を図りながらも可能な範囲で最大限の店頭フォロー活動を続け、企画提案型の営業活動を通してお客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、外出やイベント自粛等の影響により伸び悩んだ商品群があったものの、家庭内需要の高まりによりビスケット品目を中心に大袋商品やロングセラー商品が伸張したことから、売上高は前年同期並みとなりました。

利益面では、生産性の向上とコストの削減に継続して取り組んだことと、一部エネルギーコストが当初の予測に比べやや持ち直したことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、26,819百万円(対前年同期比101.1%)となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、宇治抹茶をたっぷり入れて焼きあげた「128gミニ濃厚宇治抹茶ブラウニー」や、バナナの香り豊かな「139gミニバームロールバナナクリーム」、さわやかな甘酸っぱさの「40本エリーゼゴールデンパイ」などを発売し、季節に合わせた商品展開として抹茶、バナナ、ゴールデンパイ&ゴールドキウイといった各種フェアを実施しました。また、「十六穀のパウンドケーキ」を発売し健康志向のニーズに応えた商品展開を行いました。パーティ商品群や「プチ」シリーズなどの個食商品の需要が伸び悩んだ一方、在宅機会の増加からファミリーサイズ商品群やオリジナルビスケット商品群、スタンダードビスケット商品群などが好調に推移しました。

また、気温の高くなる季節に向けて品揃えを強化したカップゼリーの「くだもの習慣」シリーズや、「ピッカラ」「ピーパリ」などロングセラーのライススナック商品群も堅調な推移となりました。

チョコレート品目は、「アルフォートミニチョコレート」シリーズにおいて、バナナ味や「白のアルフォートミニチョコレート」を発売しました。また、小粒タイプの「ドットビット」シリーズや、ミントのさわやかな味わいと香りの「ブランチュールミニチョコレートチョコミント味」、「もちもちショコラチョコミント味」を発売し品揃えの強化に取り組んだほか、カップスナック商品群では、「じゃがチョコグラデ宇治抹茶」を発売しブランドの活性化を図りました。ファミリーサイズ商品群と袋チョコレート商品群にご好評をいただいた一方、感染症対策に伴う外出自粛の影響から土産物品などの需要が影響を受けました。

ビスケット品目をはじめとして、各品目のロングセラー商品が堅調に推移したことから菓子全体では前年同期を上回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、1,059百万円(対前年同期比86.6%)となりました。

飲料品目は、「牛乳でおいしくつめたいココア缶190」の取り扱いが拡大し順調に推移したことや、「おいしいココナッツミルク」シリーズにも引き続きご支持をいただきましたが、既存品の競争激化の影響から、前年同期を下回りました。

食品品目は、素材の持つ優しい味わいを活かした女性目線で開発した新ブランド「ナクア」シリーズにおいて、「ココナッツミルクのクッキー」と「豆乳バナナのクッキー」をルート限定で発売しました。また、「スローバー」シリーズにメープルナッツクッキーを発売し品揃えの強化を図ったほか、前期末に発売した「プロテインバーチョコレートクッキー(WG)」の販売ルートを拡大しご好評をいただきました。保存缶商品の需要が高まりを見せ、前年同期を上回りました。

冷凍品目は、「ルマンドアイス」の拡売に引き続き取り組んだことに加え、当社菓子商品のロングセラーブランドを活かした“お菓子アイス”の展開として、「ロアンヌアイス」、「ガトーレーズンアイス」、「シルバーヌアイス」の販売を地域限定で開始しました。取り組みを通じ商品の認知向上に努めたものの、競争激化により前年同期を下回りました。

その他では、通信販売事業は、お客様のニーズにお応えする魅力的な品揃えを強化し、リピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益性向上と効率化に取り組み、設置台数の増加を図りました。感染症対策による移動制限の影響から自動販売機の利用機会が減少し、販売は伸び悩みました。

酒類販売事業は、「のんびりふんわり白ビール」の発売に加え、ナショナルブランド商品群が好調に推移したものの、外出自粛による土産用受託商品の需要減少と輸出商品の伸び悩みにより、前年同期を下回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は27,878百万円(対前年同期比100.4%)、営業利益は926百万円(対前年同期比193.8%)、経常利益は939百万円(対前年同期比195.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は590百万円(対前年同期比185.5%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は30,696百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,321百万円減少となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。固定資産は42,855百万円となり、前連結会計年度末に比べ176百万円減少となりました。

この結果、総資産は73,552百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,498百万円減少となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は18,280百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,973百万円減少となりました。これは主に、未払費用や未払金の減少および法人税等の支払ならびに賞与の支給があったことによるものです。固定負債は7,080百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少となりました。

この結果、負債合計は25,361百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,023百万円減少となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は48,190百万円となり、前連結会計年度末に比べ525百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は65.5%(前連結会計年度末61.1%)となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は12,035百万円となり、前連結会計年度末(13,260百万円)に比べ1,224百万円減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,579百万円(前年同期1,240百万円の収入、対前年同期比127.4%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益933百万円および減価償却費1,028百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,504百万円(前年同期1,053百万円の支出、対前年同期比237.7%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,477百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は297百万円(前年同期368百万円の支出、対前年同期比80.8%)となりました。これは主に、配当金の支払額280百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年4月28日の「2020年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,141	11,909
受取手形及び売掛金	13,066	9,362
有価証券	118	126
商品及び製品	4,599	5,124
仕掛品	555	619
原材料及び貯蔵品	2,796	3,124
その他	744	433
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	35,018	30,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,365	15,382
機械装置及び運搬具(純額)	11,076	11,144
その他(純額)	9,624	9,527
有形固定資産合計	36,066	36,054
無形固定資産		
のれん	1,091	1,062
その他	397	389
無形固定資産合計	1,488	1,452
投資その他の資産		
その他	5,476	5,348
投資その他の資産合計	5,476	5,348
固定資産合計	43,031	42,855
資産合計	78,050	73,552

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,744	10,031
短期借入金	200	200
1年内償還予定の社債	100	100
未払法人税等	944	106
賞与引当金	1,182	509
返品引当金	36	29
その他	10,046	7,304
流動負債合計	23,254	18,280
固定負債		
長期借入金	250	300
役員退職慰労引当金	237	231
退職給付に係る負債	5,731	5,654
負ののれん	16	15
その他	896	878
固定負債合計	7,131	7,080
負債合計	30,385	25,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	41,140	41,442
自己株式	△941	△941
株主資本合計	48,025	48,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	206
為替換算調整勘定	△314	△261
退職給付に係る調整累計額	△97	△82
その他の包括利益累計額合計	△360	△137
純資産合計	47,664	48,190
負債純資産合計	78,050	73,552

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	27,763	27,878
売上原価	16,505	16,046
売上総利益	11,257	11,832
販売費及び一般管理費	10,779	10,906
営業利益	477	926
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	32	31
助成金収入	0	24
負ののれん償却額	0	0
その他	16	29
営業外収益合計	51	87
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	4	3
為替差損	41	67
その他	2	2
営業外費用合計	49	74
経常利益	480	939
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	10	0
減損損失	—	3
災害による損失	5	—
投資有価証券評価損	—	1
その他	—	0
特別損失合計	15	5
税金等調整前四半期純利益	464	933
法人税、住民税及び事業税	32	65
法人税等調整額	113	277
法人税等合計	146	343
四半期純利益	318	590
親会社株主に帰属する四半期純利益	318	590

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	318	590
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△145	155
為替換算調整勘定	△43	53
退職給付に係る調整額	25	14
その他の包括利益合計	△162	223
四半期包括利益	155	814
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	155	814
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	464	933
減価償却費	1,008	1,028
のれん償却額	28	28
受取利息及び受取配当金	△33	△32
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	0	0
為替差損益(△は益)	26	56
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	0
固定資産処分損益(△は益)	10	△0
減損損失	—	3
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1
売上債権の増減額(△は増加)	3,609	3,702
たな卸資産の増減額(△は増加)	△762	△920
仕入債務の増減額(△は減少)	△145	△710
賞与引当金の増減額(△は減少)	△638	△673
その他	△1,510	△1,043
小計	2,057	2,375
利息及び配当金の受取額	33	32
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△850	△827
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,240	1,579
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,020	△2,477
投資有価証券の取得による支出	△4	△3
投資有価証券の売却による収入	0	0
その他	△28	△22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,053	△2,504
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	100
長期借入金の返済による支出	△50	△50
リース債務の返済による支出	△60	△67
配当金の支払額	△258	△280
財務活動によるキャッシュ・フロー	△368	△297
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△186	△1,224
現金及び現金同等物の期首残高	18,015	13,260
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,828	12,035

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。